

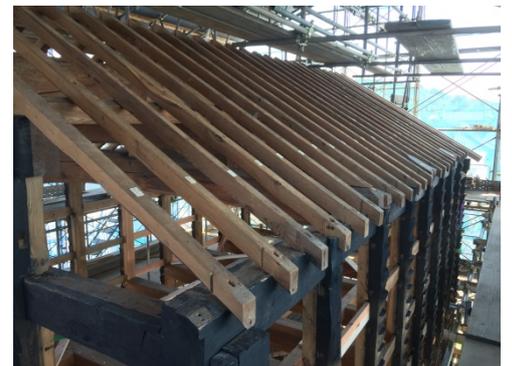
二番土蔵の保存整備工事と「土壁塗り体験」(追加資料)

平成29年4月25日
文化・スポーツ課

- 旧井上家住宅は今からおよそ290年前の享保の頃、手賀沼干拓事業を担うために江戸から我孫子にやってきた名主 井上家の住宅です。現在残る建物は幕末の弘化から万延の頃(1850年頃)の表門、母屋、二番土蔵などで、我孫子市の指定文化財となっています。
- 市では27年度に表門・裏門・外塀の保存整備工事を行い、28～30年度に二番土蔵の保存整備工事を行うことにしました。

1 28年度の工事内容

- ①蔵より一回り大きな「覆い屋」を作り、蔵を囲います
- ②記録しながら瓦を降ろし、部材の修理痕跡を調査して解体していきます。使える瓦や部材、壁土は再利用します。土壁は藁と土を足して養生しておきます。
- ③不動沈下を起こしていた礎石を外し、地盤強化を行います。
- ④礎石を水平に並べ直し、柱を建て、木で屋根の下地を作ります。木は腐った箇所を取り除き、できるだけ元の部材を使用します。



2 29年度の工事内容

- ⑤柱の間に竹を組み入れ、藁縄で固定します（竹木舞^{たけこまい}）
- ⑥竹木舞に養生しておいた土を押し込み「荒壁付け^{あらかべ}」をします。
- ⑦荒壁の上に中仕上げを6工程施します。
- ⑧屋根瓦を葺き直します（再利用+新たに焼き直した物）



3 30年度の工事内容（予定）

- ⑨仕上げの白漆喰を施します。
- ⑩蔵の側面に下見板などを取り付け完成します。

4 今回の土壁塗り体験

- ・竹木舞に「荒壁付け」をするものです。団子状に練った壁土を竹木舞に押し込みます。
- ・一度行くとおおよそ50～80年間はそのまま維持されます。
- ・本格的な蔵の土壁は現在ではほとんど行われていないため、貴重な体験です。

